

1. 事業細目：養殖漁業振興事業	予算額	4,800千円																				
2. 研究名：魚病対策指導・水産用医薬品適正使用指導事業	予算区分	国補1/2																				
3. 研究期間：昭59年度～昭63年度	4. 担当者	遠藤、藤岡、高橋																				
<p>5. 目的</p> <p>養殖業における魚病の発生、蔓延を防止し、魚病被害の軽減を図り、また医薬品の適正使用を徹底して食品として安全な養殖魚の生産を確保し養殖業経営の発展と安定化を図る。</p>																						
<p>6. 方法</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) 防疫会議……年1回開催</td> <td>(7) 水産用医薬品適正使用指導</td> </tr> <tr> <td>(2) 地域防疫検討会……年1回、湖東・北・南・西、マス類の5地域別に開催</td> <td>会議の時、巡回指導時、魚病診断時に随時行う</td> </tr> <tr> <td>(3) 魚病講習会……年1回開催</td> <td>(8) 養殖魚医薬品残留調査</td> </tr> <tr> <td>(4) アユ種苗ビブリオ菌保有調査 4～6月野洲・北小松・浜分・尾上の各蓄養池について検査</td> <td>アユ OA 20検体 SMM 20検体 ニジマス SMM 25検体 合計65検体について検査</td> </tr> <tr> <td>(5) Siga Fish Disease Newsの発行</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(6) 魚病診断・巡回指導</td> <td></td> </tr> </table>			(1) 防疫会議……年1回開催	(7) 水産用医薬品適正使用指導	(2) 地域防疫検討会……年1回、湖東・北・南・西、マス類の5地域別に開催	会議の時、巡回指導時、魚病診断時に随時行う	(3) 魚病講習会……年1回開催	(8) 養殖魚医薬品残留調査	(4) アユ種苗ビブリオ菌保有調査 4～6月野洲・北小松・浜分・尾上の各蓄養池について検査	アユ OA 20検体 SMM 20検体 ニジマス SMM 25検体 合計65検体について検査	(5) Siga Fish Disease Newsの発行		(6) 魚病診断・巡回指導									
(1) 防疫会議……年1回開催	(7) 水産用医薬品適正使用指導																					
(2) 地域防疫検討会……年1回、湖東・北・南・西、マス類の5地域別に開催	会議の時、巡回指導時、魚病診断時に随時行う																					
(3) 魚病講習会……年1回開催	(8) 養殖魚医薬品残留調査																					
(4) アユ種苗ビブリオ菌保有調査 4～6月野洲・北小松・浜分・尾上の各蓄養池について検査	アユ OA 20検体 SMM 20検体 ニジマス SMM 25検体 合計65検体について検査																					
(5) Siga Fish Disease Newsの発行																						
(6) 魚病診断・巡回指導																						
<p>7. 結果の概要</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) 防疫会議 2月現在未実施（3月中旬開催予定） 議題（案）</td> <td>(5) Siga Fish Disease News 1988.4No.18～1989.2No.28まで11号発行（2月21日現在）</td> </tr> <tr> <td>① 昭和63年度魚病センター活動報告</td> <td>(6) 魚病診断・巡回指導・医薬品適正使用指導</td> </tr> <tr> <td>② 水産用ワクチンの取扱いについて</td> <td>巡回 46件 検査 58件 電話 33件</td> </tr> <tr> <td>③ その他</td> <td>合計 137件 (4/1～2/1)</td> </tr> <tr> <td>(2) 地域防疫検討会 2月現在未実施（3月中旬開催予定） 議題（案）</td> <td>(7) 養殖魚医薬品残留調査</td> </tr> <tr> <td>① 昭和63年度魚病発生状況</td> <td>アユ OA 20検体全て残留なし SMM 20検体全て残留なし ニジマス SMM 25検体全て残留なし</td> </tr> <tr> <td>② 水産用ワクチンの取扱いについて</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③ その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(3) 魚病講習会 11月10日醒井養鱒場にて開催 「魚類の生体防御とワクチン・化学療法について」 宮崎大学 北尾忠利教授</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(4) アユ種苗ビブリオ菌保有調査 4・5月については各月4ヶ所、6月については北小松・尾上の2ヶ所について調査し合計975検体についてすべて保菌は認められなかった。</td> <td></td> </tr> </table>			(1) 防疫会議 2月現在未実施（3月中旬開催予定） 議題（案）	(5) Siga Fish Disease News 1988.4No.18～1989.2No.28まで11号発行（2月21日現在）	① 昭和63年度魚病センター活動報告	(6) 魚病診断・巡回指導・医薬品適正使用指導	② 水産用ワクチンの取扱いについて	巡回 46件 検査 58件 電話 33件	③ その他	合計 137件 (4/1～2/1)	(2) 地域防疫検討会 2月現在未実施（3月中旬開催予定） 議題（案）	(7) 養殖魚医薬品残留調査	① 昭和63年度魚病発生状況	アユ OA 20検体全て残留なし SMM 20検体全て残留なし ニジマス SMM 25検体全て残留なし	② 水産用ワクチンの取扱いについて		③ その他		(3) 魚病講習会 11月10日醒井養鱒場にて開催 「魚類の生体防御とワクチン・化学療法について」 宮崎大学 北尾忠利教授		(4) アユ種苗ビブリオ菌保有調査 4・5月については各月4ヶ所、6月については北小松・尾上の2ヶ所について調査し合計975検体についてすべて保菌は認められなかった。	
(1) 防疫会議 2月現在未実施（3月中旬開催予定） 議題（案）	(5) Siga Fish Disease News 1988.4No.18～1989.2No.28まで11号発行（2月21日現在）																					
① 昭和63年度魚病センター活動報告	(6) 魚病診断・巡回指導・医薬品適正使用指導																					
② 水産用ワクチンの取扱いについて	巡回 46件 検査 58件 電話 33件																					
③ その他	合計 137件 (4/1～2/1)																					
(2) 地域防疫検討会 2月現在未実施（3月中旬開催予定） 議題（案）	(7) 養殖魚医薬品残留調査																					
① 昭和63年度魚病発生状況	アユ OA 20検体全て残留なし SMM 20検体全て残留なし ニジマス SMM 25検体全て残留なし																					
② 水産用ワクチンの取扱いについて																						
③ その他																						
(3) 魚病講習会 11月10日醒井養鱒場にて開催 「魚類の生体防御とワクチン・化学療法について」 宮崎大学 北尾忠利教授																						
(4) アユ種苗ビブリオ菌保有調査 4・5月については各月4ヶ所、6月については北小松・尾上の2ヶ所について調査し合計975検体についてすべて保菌は認められなかった。																						

8. 主要成果の具体的数値

1988年魚病診断状況

魚種	病名	月												計	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
ア	ビブリオ病								4						4
	連鎖球菌症									2					2
	口ぐされ病							1	1						2
	ギロダクチルス症			3		1	2	1	1						8
	トリコディナ症									1					1
	水カビ病						1								1
ユ	真菌性肉芽腫症		1												1
	混合感染(1)							1							1
	不明			3	2	1	3	6/3*	15/2	6/6					26
	計		1	6	2	2	7	8	12	8					46
コ	キロドネラ症					1									1
	混合感染(2)		1												1
	混合感染(3)				1										1
イ	不明		1					1							2
	計		2		1	1		1							5
マ	伝染性造血器壊死症		1	1					1						3
	せつそう病			2											2
	細菌性えら病				1										1
	ギロダクチルス症						1								1
	白点病									1					1
ス	イクチオフォオヌス症					1	3				1				1
	混合感染(4)					1									1
	不明		2										4		6
	計		3	3	1	2	1		1	1			4		16
※4	やせ				1										1
合	計		6	9	6	5	8	9	13	9		4			68

混合感染(1)：エロモナス症+ギロダクチルス症
 (2)：トリコディナ症+ギロダクチルス症
 (3)：キロドネラ症+水カビ病
 (4)：せつそう病+細菌性腎臓病

*1：下段は、連鎖球菌症類似だがはっきり断定できなかったものの不明中の内数
 *2：ニジマス、アマゴ、イワナ、ビワマスの4種
 *3：大阪府の養殖業者より依頼された検体
 *4：ブルーギル

1987年の診断件数は、アユ67件・コイ13件・マス類17件・その他(ウナギ・ドジョウ)3件の合計100件であるのに対して、1988年は総診断件数68件と大幅に減少した。特にアユでの減少が大きく約20件前年比約30%の減少となった。このアユの診断件数減少の大きな要因は、ビブリオ病が1987年の28件から1988年4件と大幅に減ったことであった。

その他の魚種については、コイで減少がみられるが例年と大きく異なるところはなかった。

9. 今後の問題点

- (1) 水産用医薬品の適正使用の指導の強化
- (2) 魚病情報伝達系路の整備
- (3) SIFID Newsの充実

10. 次年度の具体的計画

- (1) 魚類防疫対策事業(国補)によりほぼ同じ内容で事業実施
- (2) 水産用ワクチン実用化に伴うワクチン使用に対する指導の実施とワクチンに関する情報の伝達